

## 2019 年度 IT 講習会に関する報告

大平 哲史<sup>†</sup>, 内田 瑛<sup>†</sup>, 槌屋 洋亮<sup>†</sup>, 丸山 広<sup>†</sup>

**抄録** 本報告は、青山学院大学における新入生の必修科目である情報スキル I の単位を取得するために履修する必要がある IT 講習会について、その概要について述べると共に 2019 年度の履修状況の提示および考察を行い、今後の課題について言及する。

**キーワード** : IT 講習会、情報スキル I

### The report regarding IT Course of the fiscal year 2019

Tetsushi Ohdaira<sup>†</sup>, Hikaru Uchida<sup>†</sup>, Yosuke Tsuchiya<sup>†</sup>, Hiroshi Maruyama<sup>†</sup>

**Summary** This report describes the outline of IT Course that is necessary for freshman students of Aoyama Gakuin University to take it to earn a credit of the required subject, Computer Skill I, presents and discusses the course status of the fiscal year 2019, and mentions the issue in the future.

**Keywords**: IT Course, Computer Skill I

## 1. はじめに

IT 講習会は、本学全学部の新入生に対して必修科目として位置付けられている情報スキル I 科目における単位取得のために履修する必要がある、情報メディアセンターが主体となって運営する講習会である[1]。情報スキル I 科目は、青山スタンダードの「情報と技能の領域」におけるコア科目であり、IT 講習会の運営においては青山スタンダード教育機構とも密接に連携している。本科目の特徴は、一般的な座学形式の講義と異なり、履修者自身が学習計画を立て、それに基づいて IT 講習会スキルチェックシステムという e-Learning システムを活用しつつ段階を踏んで学び、問題点が生じればその都度さまざまな手段を用いて解決するという、いわゆる自学自習形式となっている点にある。自学自習は大学における基本的な学習形態であり、履修者は IT 講習会の履修を通して、日進月歩の情報技術 (IT) の変化に対応できる能

力を身に付けることができ、さらに高校までの受動的な学習から大学における能動的な学習へとスムーズな転換を行うことができる。

IT 講習会の具体的な学習内容は以下の 3 点である。

1. 情報モラル・ネチケット (入門編および実践編)
2. PC の基本操作
3. Office アプリケーションの使い方 (文書作成、表計算、プレゼンテーション)

インターネットの利用は日常的なものとなっているが、その一方で利用上のモラルやマナー (ネチケット) は幅広く浸透しておらず、とりわけインターネット上のソーシャルメディアでの不用意な発言により、トラブルに巻き込まれる事態が毎年のように発生している。さらに PC は社会生活における必須ツールとなっており、卒業後も様々な場面で PC に習熟していることが求められている。したがって、IT 講習会で課されるこうした内容を習得することにより、学生は大学を卒業した後社会人として必要とされる IT の

素養を身につけることができる。

そして履修者の自学自習をサポートするのが、教員ではなくIT講習会補助員（以下IT-A）と呼ばれる学生アシスタントであることもIT講習会の大きな特徴である。IT-AはIT講習会を修了した学生の中で、書類選考および面接選考に合格後、研修を受けた特に優秀な者で構成され、履修者が陥りやすい誤りについて指導するだけでなく、教えることを通じてIT-A自身も成長できるという好循環が生まれている。

本報告書では、以下青山キャンパス、相模原キャンパスの2つに分けて2019年度のIT講習会履修状況を提示し、考察を述べ、そして2017年度より運用開始した、IT-Aが履修者から受けた質問を記録しているWebベースの質問記録システム[5]に蓄積された質問内容について述べ、さらにIT-Aが受ける研修内容について記し、最後に今後の課題について言及する。

## 2. 2019年度のIT講習会履修状況

### 2.1 概要

表1-1に履修者数と修了者数を前年度と合わせて示す。以降、所属キャンパス別に履修者数に対する修了者数の割合を修了率として求め、報告する。

表1-1 履修者数と修了者数（前年度比較）

学部	2018年度		2019年度	
	履修者	修了者	履修者	修了者
文学部	1306	762	1250	718
経済学部	823	452	893	553
法学部	896	483	898	550
経営学部	728	482	780	549
理工学部	772	621	771	625
国際政治経済学部	481	300	470	304
総合文化政策学部	404	269	389	257
社会情報学部	207	180	242	223
教育人間科学部	448	298	429	294
地球社会共生学部	358	192	352	220
コミュニティ人間科学部	0	0	266	240
合計	6423	4039	6740	4533

### 2.2 青山キャンパス

図1-1に全学年の学部別修了率をグラフで示す。図1-2、1-3、1-4、1-5は学年別で示した。いずれも相模原キャンパス所属学部と合わせた両キャンパス合計の修了率とともに示した。

全学傾向として修了率が伸びており、4.4%上昇している。青山キャンパスに関して学部別に見ても、前年度よりやや高いか、ほとんど変わらない。

学年別の傾向で見ると、1年生で履修する科目であるにも関わらず、1年生で修了しなかった学生の多くは4年生で修了を目指している現状は変わらないものの、4年生の修了率が伸びていることにも着目したい。全学では1.5%と微増であるが、法学部、経営学部、教育人間科学部の4年生修了率著しく伸びたといえる。

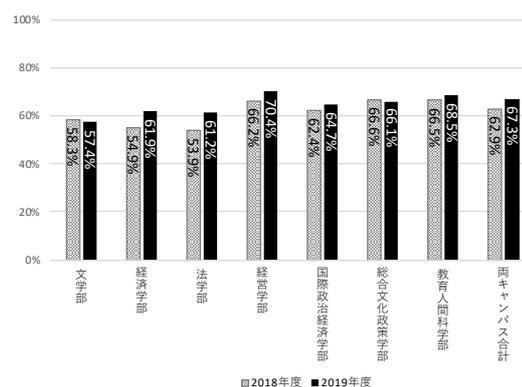


図1-1 学部別 全体修了率（前年度比較）

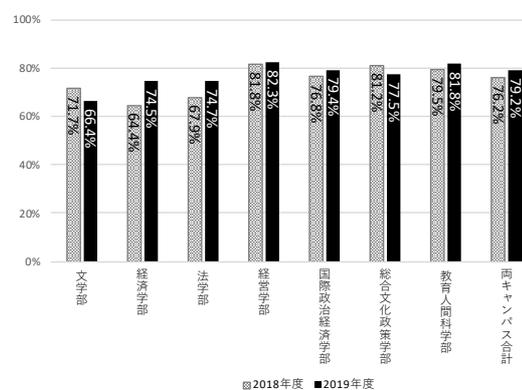


図1-2 学部別 1年生修了率（前年度比較）

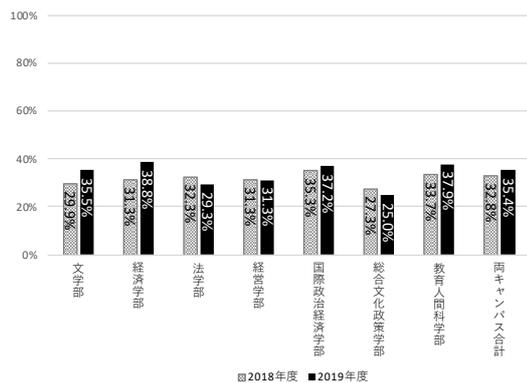


図 1-3 学部別 2 年生修了率 (前年度比較)

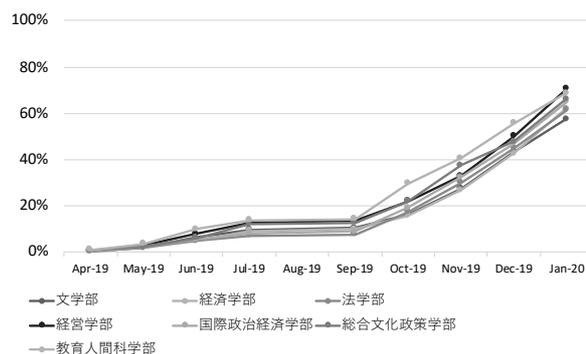


図 1-6 学部別の修了時期

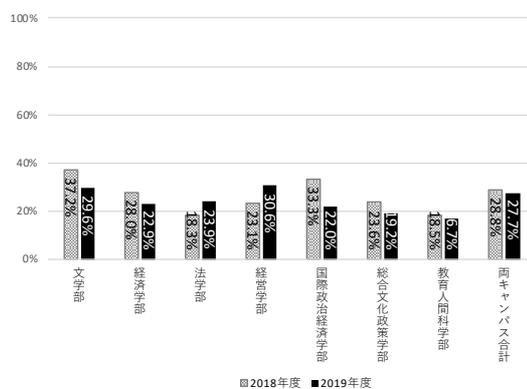


図 1-4 学部別 3 年生修了率 (前年度比較)

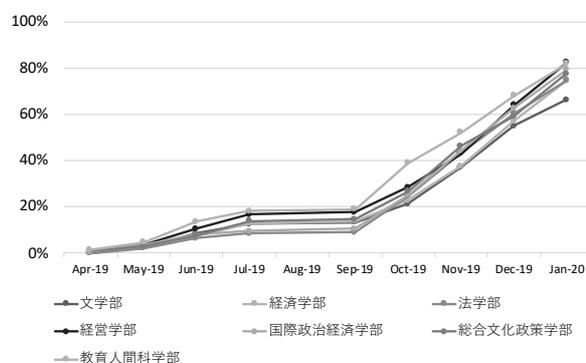


図 1-7 1 年生の修了時期

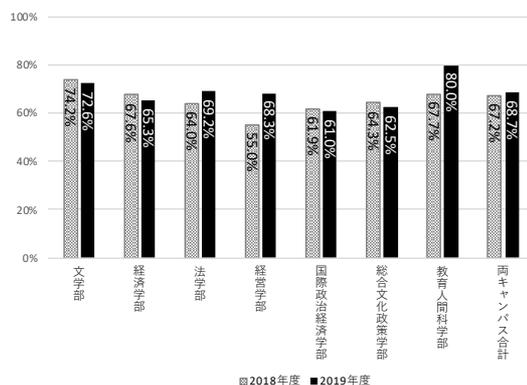


図 1-5 学部別 4 年生修了率 (前年度比較)

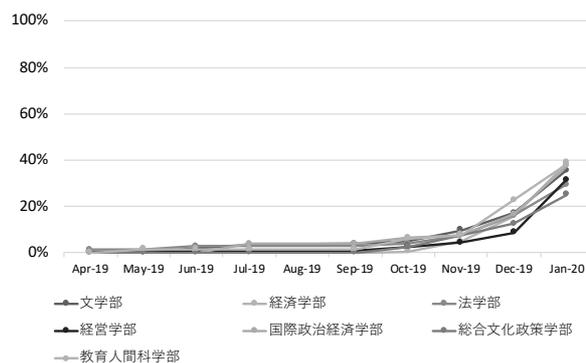


図 1-8 2 年生の修了時期

次に 2019 年度の IT 講習会の修了時期と修了率の積算を示す (2019 年 4 月から 2020 年 1 月)。修了時期とは IT 講習会の最終科目「情報モラル・ネット実践編」に合格した月である。図 1-6 は全学年の修了時期、図 1-7、1-8、1-9、1-10 は学年別の修了時期を示す。

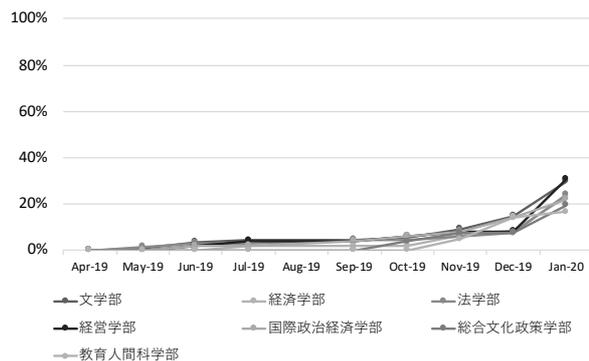


図 1-9 3年生の修了時期

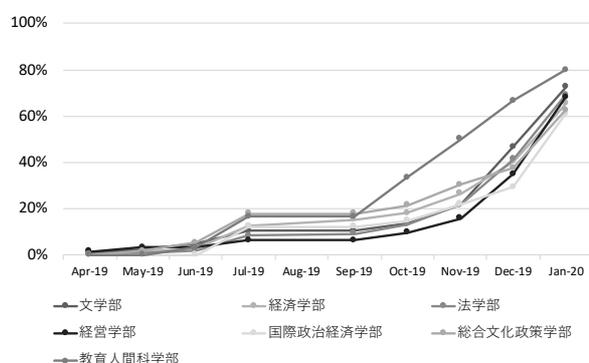


図 1-10 4年生の修了時期

1年生と4年生は2割程度が前期中(7月まで)に修了する。後期に入ると1年生は前期以上に加速的に伸びていくが、4年生は後期の後半である12月から1月にかけて急激に伸びる傾向にある。ただし教育人間科学部の4年生は後期に入って目覚ましい速さで修了している。2年生と3年生は、前期に修了する履修生はほとんどいない。

我々は1年生に対して年度初頭オリエンテーションでIT講習会の重要性や学習スケジュールについてIT-Aを通じて説明している。しかし2年生以上に対するアプローチは確立されていないのが現状である。それでもこの数年は全体の修了率が伸びている。1年生が着々と修了していくために、試験室の混雑ピークは年度末ではなく、11月から12月が最も混雑しており、4年生が受検し始める12月頃にはやや緩和されているほどである。これは以前には考えられなかった環境変化である。

2年生と3年生の修了率は思わしくないが、同じように学習状況も芳しくないことを加えておく。学生によっては1年生の履修科目が多く、はじめから2年生で履修する予定だった、と応える者もいるが、1年生で修了できずにそのまま一切自学自習を進めることはなく放置し続け、4年生になってから再開する者も多い。つまり修了できないというより、そもそも自学自習に着手できていない。

2018年度に報告したように[1]、IT講習会では、IT-Aから教わったり、IT-Aが作成しているガイドブックを読んで学ぶスタイルに次いで、友人と共に学ぶ学習スタイルによって修了に至る者も多くいる。友人と励まし合いながら学ぶ環境に最も恵まれるのは1年生だろう。できる限り1年生で修了できるような教育環境を提供するとともに、2年生と3年生の自学自習を促す仕組みづくりも検討したい。

## 2.3 相模原キャンパス

まず、相模原キャンパスの学年別合格率推移を、図2-1から図2-4に示す。また、相模原キャンパス学科別最終合格率(各学科1~3年生の合計)を図2-5に示す。2019年度の履修者数は1年生が1322人、2年生が155人、3年生が102人、4年生が45人であった。最終的な合格率は、1年生については88.7%で昨年度と比較して5%近く増加した。2年生については40.6%であり、ほぼ昨年度と同じであった。3年生については39.2%と、昨年度と比較して4.5%近く増加した。2018年度から履修者として加わった4年生は74.4%であり、昨年度と比較すると残念ながら5%程度減少してしまった。なお、4年生は再入学者を除きすべて地球社会共生学部の学生である。学科別にみると、約1%減少した物理・数理学科と4.5%と減少した情報テクノロジー学科を除き、2018年度より合格率は上がっている。特に地球社会共生学部は10.7%と大きく増加しており、次いで社会情報学部が6%、電気電子工学科が4.7%、化学・生命科学科が2.4%、機械創造工学科と経営システム工学科が1.9%の増加となった。地球社会共生学部と社会情報学部については、同学部の情報スキルI担当教員と緊密に連携

し、学生に修了を促したことが功を奏した形である。社会情報学部では、IT 講習会の早期の修了が別の必修科目の単位取得の前提となっているにもかかわらず、合格率が年々低下していたが、この傾向についても改善された。

ここで、地球社会共生学部に着目すると、まず1年生の合格率は 78.6%と昨年度の 63.6%を大きく上回り、2年生は 30.3% (昨年度 26.2%) と向上した。一方3年生は 34.2 (昨年度 39.4%)、先述の通り4年生は 74.4%と、共に 5%程度減少したが、昨年度と同様 2019 年度に卒業を予定していなかった学生以外は修了できた。これは、先述の通り情報メディアセンターの IT 講習会担当教員と、地球社会共生学部の情報スキル I 科目担当教員が緊密に連携し、履修者に早期の修了を積極的に促したことが功を奏したものである。同学部では 1 年次での情報スキル I 科目の単位取得が推奨されている一方で、多くの学生が 1 年次で合格しないことが問題となっていたが、この問題がかなり改善されてきている。2019 年度の 3 年生・4 年生の合格率はやや振るわなかったが、これは 1 年次の未合格者が多かったことに起因しているため、1 年生の合格率については今年度の数字を維持していくことが重要である。2019 年度も引き続き当該学部の学生を積極的に IT-A に迎えており、さらに学部の特徴を加味した自学自習の支援に取り組む予定である。

一方で、理工学部と社会情報学部では情報スキル I 科目の単位取得が 4 年次進級要件になっている。それにもかかわらず、3 年次の合格率が理工学部全体で 38.3%と昨年度よりは改善したものの依然として低い水準にある。2 年次での合格率も理工学部全体で 48%と低い。後期の 11 月前半から自学自習室およびスキルチェック教室に IT 講習会スケジュールの掲載に加えて終了日を目立つように掲示しているが、とりわけ 1 年次に修了できなかった理工学部学生への更なるケアが必要である。

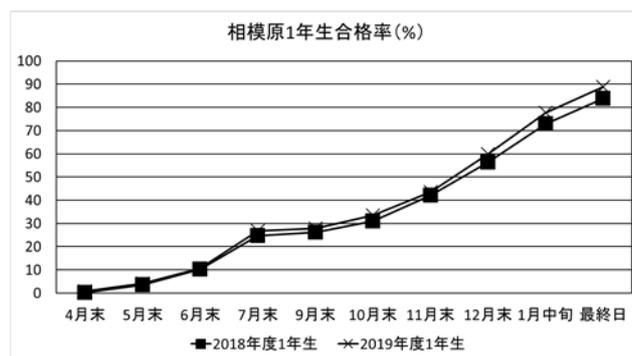


図 2-1 相模原キャンパス 1 年生合格率 (%) 時系列推移

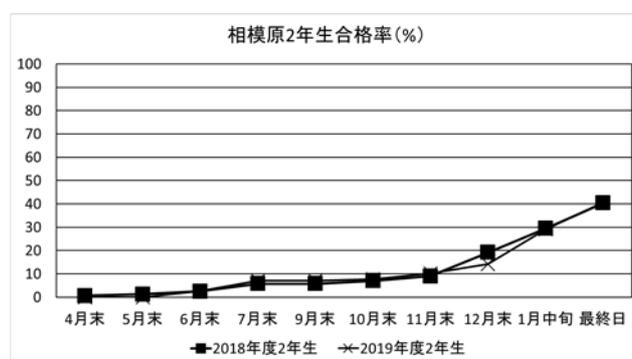


図 2-2 相模原キャンパス 2 年生合格率 (%) 時系列推移

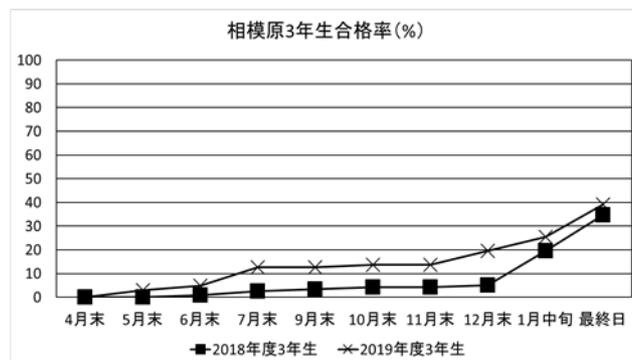


図 2-3 相模原キャンパス 3 年生合格率 (%) 時系列推移

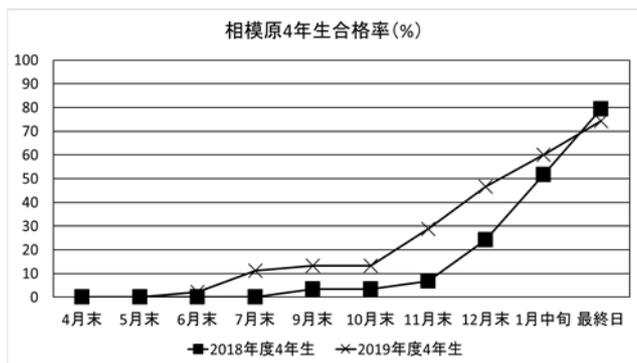


図 2-4 相模原キャンパス 4 年生合格率 (%) 時系列推移

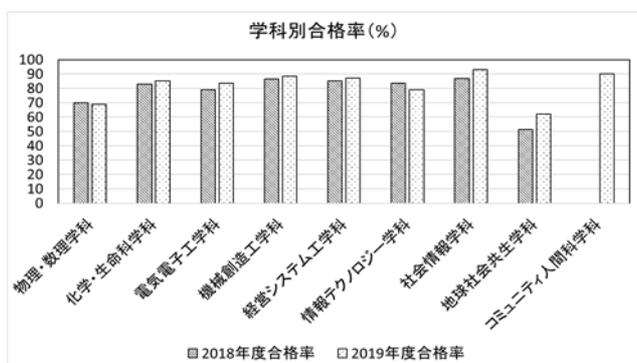


図 2-5 相模原キャンパス学科別最終合格率 (%、各学科 1~3 年生を合計)

図 2-6 に、受検開始者数と修了者数の推移を示す。4 月中に 974 人（約 60%）の履修者が IT 講習会スキルチェック受検を開始している。以後、夏季休暇までは緩やかに増加し、後期が開始する 9 月以降に再び増加する。一方、修了者数は前期末の 7 月と 11 月以降に急増する。前期末に増加する理由は、先述の通り社会情報学部では、IT 講習会の修了が別の必修科目の単位取得の前提となっているためである。

図 2-7 に、受検開始から修了までに要した日数別人数を示す。修了までに要する日数の平均は約 156 日だが、121~160 日での修了者は少ない。これは夏季休暇が日数に含まれるため、前期に受検を開始して後期に修了すると 160 日以上かかることが原因である。今年度最も多いのは 241~260 日までの間で修了した 167 人である。次に多いのが 221~240 日までの間で修了した 155 人、そして 61 日~80 日までの間で修了した 144 人である。特に理工学部は実験な

どによって自学自習の時間を十分に確保することが困難な履修者が多く、早めに着手したとしても修了時期が遅くなるケースが見られるため、そうした点を考慮して IT-A による自学自習のサポートを展開している。

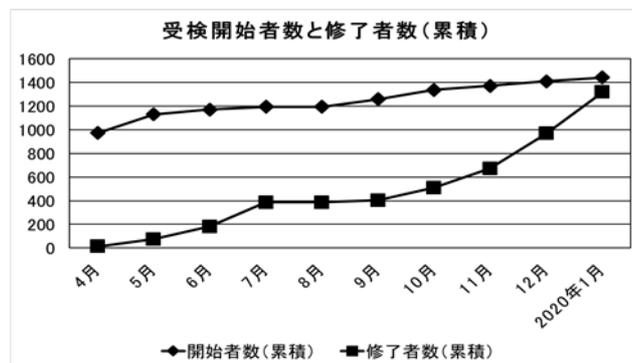


図 2-6 受検開始者数と修了者数の時系列推移 (相模原キャンパス)

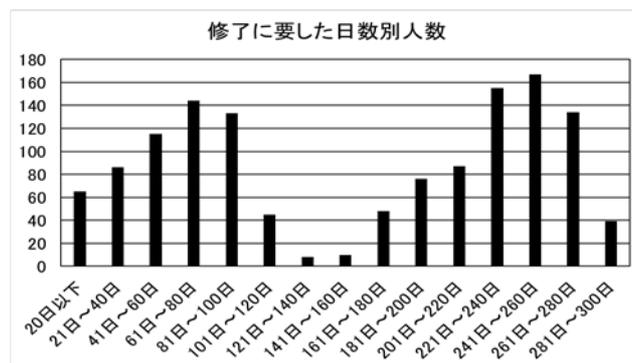


図 2-7 受検開始から修了までに要した日数別人数 (相模原キャンパス)

図 2-8、2-9 に、Web ベースの質問記録システムを利用して取得した、IT-A が履修者から受けた質問数について、IT 講習会の科目別に前期・後期それぞれ時系列データとして示す。前期については、2018 年度までは 5 月下旬に質問数がピークとなっていた。これは社会情報学部 1 年生の科目履修に由来しており、5 月末までに IT 講習会を修了した場合、その後の科目履修に有利となるためである。しかし 2019 年度については、基本操作と文書作成の質問が 4 月初めから多く、例年の 5 月下旬のピークを上回る量の質問があった。後期については、同じく 2018 年度ま

では 11 月中旬と IT 講習会終了間際の 1 月前半に質問数がピークとなっており、またプレゼンテーション科目の質問数が後期の後半にかけて増加する傾向にあった。これは、特にプレゼンテーション科目において、スライドマスターの設定に関する問題の難易度が高く、多くの履修者がこれを質問するためである。しかし、2019 年度は 11 月中旬のピーク時の質問数が昨年と比較して 2 倍近く、また 1 月前半のピークが前倒しで 12 月の第 3 から 4 週にかけて見られ、逆に 1 月に入ると質問数は減少している。これは、コミュニティ人間科学部の学生の学習意欲が高く、理工学部との学生と比較して早期に修了する傾向にあったことを示すものである。

### 3. IT-A による活動と貢献

#### 3.1 履修者への学習支援

ここでは、2019 年度における IT-A の質問対応について報告する。IT-A は履修者から自学自習中に質問を受けると、どのような質問を受けたかを記録している。図 3-1 は青山キャンパスにおける質問対応集計のグラフである。最も多くの質問を受けた時期は 10 月で、2186 件だった。「基本操作」、「文書作成」、「表計算」、「プレゼンテーション」のうち、表計算に関する質問が最も多かった。表計算の問題は、特に学部 1 年生にとっては馴染みがなく、IF 関数に関する問題への質問 (1291 件) と、グラフの作成に関する質問 (989 件) がとても多い。

記録漏れもあると思われるが、2019 年度は合計 9370 件の質問を受けた。IT-A の対応数は平均して 240.2/人だった。最も対応件数が多かった IT-A は 1753 件だったことも合わせて報告する。

これまでも質問対応の記録を取るよう指導し続けていたが、質問が集中する瞬間があり、つい記録し忘れることが多く、なかなか定着しなかった。そこで 2017 年度より、質問対応を登録した IT-A の ID を取得できるシステムを開発し、特に 2019 年度は毎月の IT-A ミーティングで、「誰がどれくらいの質問に対応したか」を集計して報告するようにした。これにより質問対応に対するモチベーションを高める効果があったと思われ、記録された質問対応数が大きく伸びている。2019 年度から初めて IT-A として働き始めた学生であってもたくさんの質問に、積極的に対応するようになり、IT-A のコミュニティも活気づき、大きな成果が得られた。どの履修者がどんな質問をしたのか、も追って分析したいところではあるが、現在のシステムでは記録できていない。IT 講習会の運営方法も検討の余地がある。

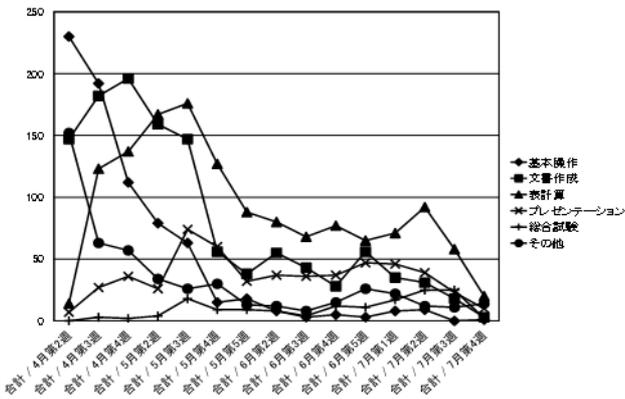


図 2-8 IT-A が履修者から受けた IT 講習会の科目別質問数の時系列推移 (相模原キャンパス前期)

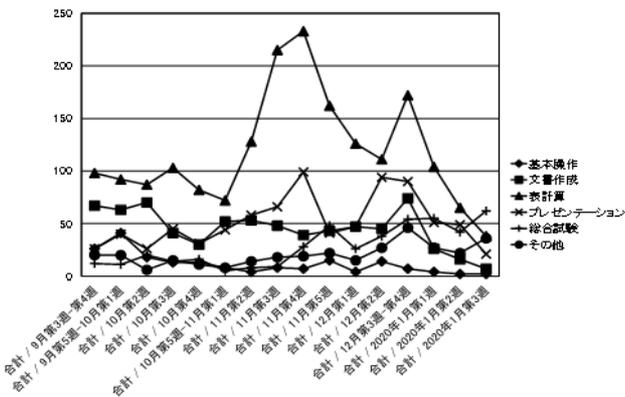


図 2-9 IT-A が履修者から受けた IT 講習会の科目別質問数の時系列推移 (相模原キャンパス後期)

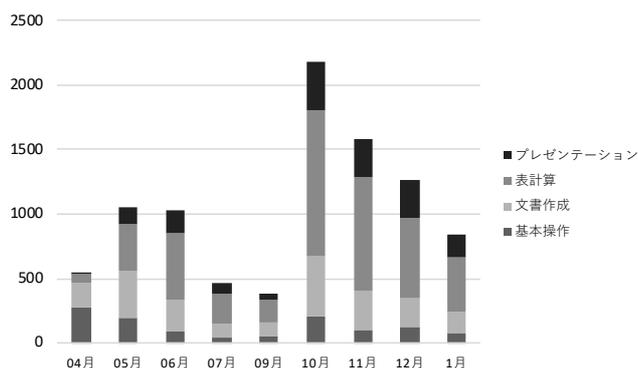


図 3-1 質問カテゴリ別 月間集計 (青山)



図 3-2-1 教え方研修 (青山)

### 3.2 情報モラルの省察を促すゲーミング

2020 年度から働き始める新 IT-A とともに、研修を行った。例年、自学自習室における質問対応をロールプレイング型のシミュレーション形式で実施している。まず 2019 年度に務めている先輩 IT-A が履修者として質問をし、それに対して新 IT-A が IT-A として応える。次は交代して、先輩の質問対応を観察しながら、自身の対応を振り返る (図 3-2)。これは新 IT-A のための研修のようでありながら、実は先輩 IT-A のためでもある。通常期間にはなかなか他の IT-A がどのような質問対応をしているのかを間近で見るとは少ない。このような研修で定期的に省察することを促している。

青山キャンパスの研修ではこれに加えて、「情報モラルかるた」[2]を取り入れた。情報モラルに関する標語がかるたになったものである。通常のかるた取りと同じように、読み札が読み上げられたら絵札を取るが、取った後に標語の解説を読み上げて 1 ターンが終わる (図 3-3)。15 分ほど遊んだ後、どのかるたが「自分が気をつけたい札」、「IT-A として大学生に伝えたい札」、「分からなかった札」を各班で選ばせ、全体で発表して共有させた。

これまでの研修では、IT 講習会での教え方を研修するのみであったが、こういったゲーミングを取り入れて、「遊びの中で情報モラルを学ぶ」という研修も、自己研鑽のためには有効だと考える。



図 3-2-2 教え方研修 (相模原)



図 3-3 「情報モラルかるた」による研修 (青山)

## 4. おわりに

IT 講習会は、自学自習形式という特殊性ゆえに、過年度生をはじめとして上手く馴染むことができない一部の学生を生んでいることも事実であるが、2014～2018 年度と同様[1]、2019 年度はこうした学生に対し、情報メディアセンターの IT 講習会担当教員により、授業支援システム CoursePower を利用して細やかなメンタリングを行っただけでなく、とりわけ相模原キャンパスにおいて、地球社会共生学部の情報スキル I 科目担当教員と緊密に連携し、同学部の 4 年生の履修進捗状況に注意を払い、無事単位取得へと導くことができた。

2020 年度についても、各学部の情報スキル I 科目担当教員および教務主任の教員と必要に応じて緊密に連携し、各学部からの提案にも真摯に耳を傾け、より合格率を向上させるよう努力していく所存である。

## 謝辞

本報告の一部は、青山学院大学附置情報メディアセンターの重点研究「情報基礎教育に関する CBT システムにおける学習データ分析と評価」の助成を受けている。

## 参考文献

- [1] 大平哲史, 内田瑛, 梶屋洋亮, 丸山広: “2018 年度 IT 講習会に関する報告”, 2018 年度青山インフォメーション・サイエンス, Vol. 46, No. 1, pp.86-92, (2019)
- [2] 制作・販売 株式会社ネル・アンド・エム「情報モラルかるた」 <https://www.joho-karuta.com/>